

「元気いっぱい・笑顔いっぱい」

特別支援教育統括コーディネーター 加賀谷 勝

「5歳児健診の現状」

政府は発達障害の早期発見に有効として「5歳児健診」の普及に向け、自治体への支援強化に乗り出しました。「5歳児健診」は任意であり、2023年度の調査では全国で14%にとどまっています。こども家庭庁は、2028年度までに100%実施を目指します。

内容や方法は一部異なりますが、すでに実施している1市3町の現状を紹介します。

1 目的（3歳児健診と就学時健診の橋渡し）

- ・5歳児の成長過程を確認し、支援が必要な子どもの早期発見・支援を行う。
- ・保護者に対して、望ましい生活習慣づくりの啓発と就学相談の場を提供する。

2 今年度の実施回数と対象人数（年中児とその保護者）

能代市（12回 201人） 八峰町（2回 20人） 藤里町（1回 6人） 三種町（4回 53人）

3 内容（事前：保護者と園が子供に関するアンケートを記入・提出）

- ①身体計測（身長・体重） ②問診（発育状況・栄養状態等） ③診察
④発達確認（集団・自由遊び・検査） ⑤保護者学習会 ⑥個別相談 ⑦カンファレンス

4 運営スタッフ（約10人～20人）

小児科医、臨床心理士、保健師、保育士、相談員、福祉保健課及び教育委員会関係者等

5 保護者学習会（私が保護者に伝えていること「いい子だから可愛がるのではない、可愛がられた子がいい子になる」）

- ・外見上の特長よりも、性格的な強みを言える親になる。
- ・読む・話す・書く・聞く・推論する・計算するのうち、「聞く力」を大切にする。
- ・小学校入学まで、①自分の名前と年齢が言える、②周りに人に返事と挨拶ができる、③身辺処理がある程度一人でできる、④遊んだ後に片付けができる、⑤思い切り体を動かして楽しく遊ぶことができる、⑥人の話を聞いて行動できる、⑦自分の思ったことを伝えられる、⑧隣の子とも仲良く遊ぶことができる力を身に付ける。
- ・よい睡眠や朝食の習慣と、学力・問題行動には深い関連があるので、「早寝早起き朝ご飯」の習慣を付ける。

6 事後フォロー（就学時健診の際、事前情報として小学校に伝えている）

- ①当日：発達確認や診察結果を基に、支援が必要と思われる子どもと保護者を検討する。
②後日：支援の必要がある場合は、園に様子を尋ねたり、訪問したりする。その上で、保護者へ相談会の案内や医療・療育機関の紹介をする。

7 課題

- ①乳幼児健診→5歳児健診→就学時健診の情報が引き継がれる切れ目ない支援体制の確立。
②保護者と合意形成を図りながら、医療等の関係機関と連携した支援と適正就学の実現。
③少子化や医師不足に伴い、1市3町単独実施から広域実施の検討。



「本人の困りごとを支援のスタートに！」

読み書きに困難さのある生徒の検査やチェックリストを実施すると、形を正確に捉えたり、記憶したりする力、空間認知、言葉の理解力等に弱さがある。本人の困りごとに耳を傾け、定規を当てて読む、漢字にルビを振るなど読みやすい方法を工夫する、タブレットを活用して板書を確認する、書く量を調整するなど一緒に試行錯誤をしながら、よりよい方法を見つけ、やがて本人が工夫できるようにする。中学生の場合は、入試の合理的配慮につなげる。